

1 今治市内の児童・生徒数の現状と見込み

(1) 今治市内の学校数、児童生徒数の推移

(単位：校、人)

	小学校			中学校			出生数 (年)
	学校数	児童数	1校当たり 平均 児童数	学校数	生徒数	1校当たり 平均 生徒数	
平成 17 年度	33	9,602	291	21	4,918	234	1,254
平成 18 年度	33	9,376	284	20	4,422	221	1,349
平成 19 年度	30	9,256	309	20	4,449	222	1,289
平成 20 年度	30	9,166	305	19	4,437	234	1,293
平成 21 年度	30	8,988	300	19	4,456	235	1,282
平成 22 年度	30	8,848	295	19	4,386	231	1,295
平成 23 年度	30	8,551	285	19	4,449	234	1,317
平成 24 年度	30	8,366	279	19	4,271	225	1,206
平成 25 年度	30	8,129	271	18	4,284	238	1,131
平成 26 年度	29	7,939	274	18	4,083	227	1,047
平成 27 年度	26	7,794	300	16	4,071	254	1,118
平成 28 年度	26	7,709	297	16	3,971	248	1,065
平成 29 年度	26	7,669	295	16	3,896	244	1,025
平成 30 年度	26	7,666	295	16	3,762	235	1,015
令和元年度	26	7,554	291	16	3,660	229	895
令和 2 年度	26	7,391	284	16	3,643	228	841
令和 3 年度	26	7,148	275	16	3,652	228	817
令和 4 年度	26	6,893	265	16	3,647	228	745
令和 5 年度	26	6,709	258	16	3,545	222	694
令和 6 年度	26	6,417	247	16	3,499	219	

※中学校は今治明德中学校を含み、今治東中等教育学校（前期課程）を含まない。

(2) 学校、学年ごとの児童・生徒数及び今後の入学者数見込

ア 小学校【令和6年度（5月1日現在）】

学 年	R11 入学	R10 入学	R9 入学	R8 入学	R7 入学	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	参考
年 齢	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	現在の 児童数	H27年度 児童数
吹揚小学校	50	41	52	43	66	45	55	61	51	66	59	337	420
別宮小学校	23	24	38	39	36	28	40	38	39	33	50	228	270
常盤小学校	72	75	67	66	59	54	70	79	77	80	87	447	523
近見小学校	37	36	31	38	39	49	47	47	36	48	51	278	320
立花小学校	45	66	54	62	65	69	72	72	59	69	86	427	521
鳥生小学校	74	66	81	82	68	79	87	82	66	77	70	461	435
桜井小学校	31	44	37	43	48	42	45	44	52	57	55	295	451
国分小学校	23	40	23	27	28	25	30	32	31	31	37	186	263
富田小学校	64	65	66	74	68	92	84	85	89	89	100	539	675
清水小学校	36	39	43	38	58	55	42	52	74	49	64	336	384
日高小学校	69	87	81	63	95	87	80	82	87	86	101	523	565
乃万小学校	66	67	76	85	93	97	119	114	115	119	105	669	558
波止浜小学校	21	22	28	24	33	44	31	48	39	50	59	271	335
朝倉小学校	13	10	16	10	17	16	22	27	25	25	30	145	201
鴨部小学校	7	8	6	13	12	5	13	9	18	13	13	71	102
九和小学校	4	10	10	10	6	13	11	14	11	17	8	74	107
波方小学校	27	27	31	34	34	28	48	24	35	46	42	223	330
大西小学校	32	38	36	53	53	64	48	65	62	54	48	341	418
亀岡小学校	5	5	6	8	8	7	10	7	7	7	6	44	65
菊間小学校	12	4	12	7	11	14	17	10	15	19	22	97	150
吉海小学校	2	7	6	11	13	7	11	7	7	6	17	55	137
宮窪小学校	3	4	9	7	6	12	9	8	6	12	12	59	118
伯方小学校	22	22	23	25	23	28	38	31	33	25	32	187	253
上浦小学校	4	6	3	6	8	9	4	9	8	10	11	51	90
大三島小学校	7	2	12	6	7	9	12	13	11	13	12	70	100
岡村小学校	0	2	0	0	1	0	0	1	0	1	1	3	3
合 計	749	817	847	874	955	978	1,045	1,061	1,053	1,102	1,178	6,417	7,794

8人以下

35人以下

※R6年度以降の入学者数は各校区の住民登録人数による（R6.3.31）

※複式学級 ○亀岡小学校【3/4年】【5/6年】

○吉海小学校【3/4年】

○宮窪小学校【3/4年】

○上浦小学校【2/3年】

○岡村小学校【5/6年】

イ 中学校【令和6年度（5月1日現在）】

学 年	R11 入学	R10 入学	R9 入学	R8 入学	R7 入学	1年	2年	3年	計	
年 齢	8	9	10	11	12	13	14	15	現在の 生徒数	H27 年度 生徒数
日吉中学校	167	187	167	185	196	153	141	135	429	556
近見中学校	49	47	32	51	54	59	50	63	172	155
立花中学校	159	155	127	141	158	140	144	147	431	424
桜井中学校	81	83	86	89	94	86	76	65	227	294
南中学校	126	133	165	137	164	153	139	159	451	510
西中学校	202	205	207	208	212	197	210	205	612	559
北郷中学校	83	75	75	99	101	93	88	106	287	387
朝倉中学校	20	27	24	26	31	23	35	27	85	94
玉川中学校	24	23	29	30	23	32	38	32	102	118
大西中学校	48	64	65	52	49	59	42	87	188	214
菊間中学校	27	17	22	27	30	15	23	36	74	130
大島中学校	20	16	13	20	29	22	24	35	81	132
伯方中学校	38	31	34	25	32	36	27	23	86	144
大三島中学校	16	22	18	23	23	23	24	20	67	113
関前中学校	0	1	1	1	1	1	0	0	1	2
合 計	1,060	1,086	1,065	1,114	1,197	1,092	1,061	1,140	3,293	3,832

35 人以下

※R6年度以降の入学人数は各校区の住民登録人数による（R6.3.31）

※小学校区別の数値のため実際の入学者とは異なる

2 学校適正配置にかかるスケジュール

R5 年度 令和5年7月～令和6年2月 学校運営協議会への説明、意見聴取

令和 6 年 3 月 市議会教育厚生委員協議会への説明

R6 年度	令和 6 年 6 月	今治市教育委員会から今治市通学区域調整審議会へ「学校規模学校適正配置のあり方」について、諮問
-------	------------	--

第1回今治市通学区域調整審議会を開催

令和6年9～10月 各地区説明会（全18地区）

令和6年11～12月 アンケート調査

R7 年度 令和 7 年 5 月 今治市通学区域調整審議会から今治市教育委員会に答申

令和7年7～8月 パブリックコメント

令和7年9月 今治市教育委員会が「今治市学校適正配置基本方針」を決定

R5 年度 学校運営協議会（全 3 3 協議会）への説明及び意見聴取の実施

- 各学校の児童・生徒数の現状と今後の見込みから、学校適正配置へ取り組む必要性を説明。
- 小規模校のデメリットを緩和する策として、小中一貫教育制度の導入、I C T機器を活用した学習を紹介。
- 学校のあるべき姿、学校適正配置に取り組むにあたっての留意すべき点などについて、意見を聴取し、集約を行った。

◎主な意見

- 保護者としては児童数、生徒数が少なくなると学校事業が寂しくなる。友達も多い方がいいので、統合を進めてほしい。
- 特に小学校はコミュニティの核となる施設。小規模校のデメリットに対する解決方法もあると思うので、地域に学校を残してほしい。
- 子どもの数が減れば統合はやむを得ないと思うが、通学距離が延びれば通学の足の確保をしてほしい。
- 小規模校はデメリットだけではなく、きめ細やかな対応ができるなど、良いところも多い。小規模校の良さを活かした運営を検討してほしい。
- 学校によっては、市内のどこに住んでいても希望すれば通学できるような特色のある学校づくりをしてはどうか。
- 通学区域の弾力的な運用があってもいいのではないか。
- 小中一貫校は、学校規模も確保でき、地域に学校も残るので、希望が持てる考え方だと思う。
- 保護者や地域の声を聞くなど、幅広い意見を取り入れてほしい。
- 前回統合した学校の保護者の意見を聞くなど、評価・検証を行い、その結果を示してほしい。

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き(要旨) H27.1.27文部科学省

■児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという特質を踏まえると、学校については一定の規模を確保することが望ましい。

※小規模の場合には、例えば、以下のような課題が生じる

- ・クラス替えができない、クラス内で男女の偏りが生じる、人間関係が固定化する
- ・多様な意見に触れることが難しくなる、スポーツ実技や合唱・合奏などが困難になる



■そのため、文部科学省では、小中学校の学校規模(学級数)の標準等を設定。(12学級以上18学級以下)

ただし、学校適正配置に関する基本的な考え方は、

- 学校規模適正化の検討は、児童生徒の教育条件をより良くする目的で行うべきもの。
- 学校統合を行うか、学校を残しつつ小規模の良さを活かした学校づくりを行うか、休校した学校の再開を検討するかなど、活力ある学校作りをどのように推進するかは地域の実情に 応じたきめ細かな分析に基づく各設置者の主体的判断。
- コミュニティの核としての学校の性格や地理的要因・地域事情等に配慮する必要。特に過疎地など、地域の実情に応じて小規模校の課題克服を図りつつ小規模校の存続を選択する市町村の判断も尊重。



■小規模校の課題を緩和する方策も。

小中一貫教育による一定の学校規模の確保

●小中一貫教育制度

○小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

●小中一貫教育による教育環境の充実

- 教員配置人数の確保
- 教科専任制の教員による授業

ICTの活用による他校との合同授業

●遠隔合同授業

○遠隔会議システムなどのICTを活用して離れた学校同士をつなぎ、両校の児童生徒が合同で行う授業

●遠隔合同授業の主な効果

- 学習活動の規模が広がり、友達との話合いや議論を通じて、多様な意見に触れられ、自分の考えを深められる
- 学習意欲や相手意識が高まり、コミュニケーション力や社会性が養われる

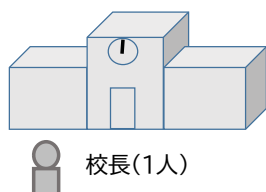
小中一貫教育による一定の学校規模の確保

小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

①義務教育学校

- ・新たな学校種(一つの学校)
⇒一人の校長、
一つの教職員組織

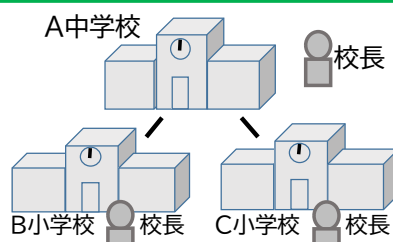
修業年数:9年
(前期課程6年+後期課程3年)



小中一貫型小学校・中学校

- ・組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態
⇒それぞれの学校に校長、教職員組織

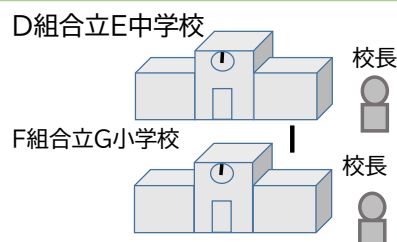
②併設型小学校・中学校 (同一の設置者)



※一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件

例・総合調整を担う校長を定める
・学校運営協議会の合同設置
・校長等を併任

③連携型小学校・中学校 (異なる設置者)



※併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備すること

※①②③いずれも施設の形態は問わない。

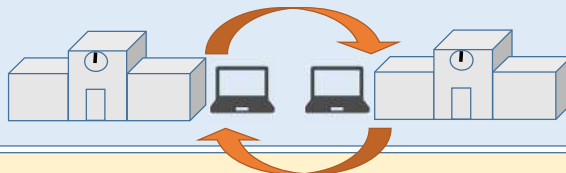
ICTの活用による他校との合同授業

●遠隔合同授業

- ・遠隔会議システムなどのICTを活用して離れた学校同士をつなぎ、両行の児童生徒が合同で行う授業
- ・一方向・一斉型の授業だけでなく、児童生徒が自ら課題を発見して主体的に学びあったり、対話や議論を通じて、集団としての考え方を発展させたりする協働的な活動が求められる。

●遠隔合同授業での主な学習活動

- 教員の説明や発問、板書や教材の提示
- 全体で行う発表や話し合いやグループやペアでの活動



●遠隔合同授業の主な効果

- 学習活動の規模が広がり、友達との話し合いや議論を通じて、多様な意見に触れられ、自分の考えを深められる
- 学習意欲や相手意識が高まり、コミュニケーション力や社会性が養われる
- 場所が離れている良さを生かした学習や、離れた場所にある学習資源を利用した学習活動ができ、複式学級での直接指導の時間が増える